

目 次

令和 元年 1 2 月 1 7 日 (火曜日) 第 2 号

○招集年月日	-----	1 頁
○招集の場所	-----	1 頁
○開 議 日 時	-----	1 頁
○応 招 議 員	-----	1 頁
○不応招議員	-----	1 頁
○出 席 議 員	-----	1 頁
○欠 席 議 員	-----	1 頁
○地方自治法第 1 2 1 条の規定により説明のため出席した者の職氏名	-----	1 頁
○本会議に職務のため出席した者の職氏名	-----	1 頁
○議 事 日 程	-----	2 頁
○開 議 宣 告	-----	3 頁
○諸般の報告	-----	3 頁
○一 般 質 問	柏倉議員 -----	3 頁
	・ 長万部音頭の保存をどう考える	
	大谷議員 -----	7 頁
	・ 地域対策・人口減少対策は	
	・ 冬期間の町道の危険防止の対策は	
	村川議員 -----	9 頁
	・ 第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について	
	橋本議員 -----	12 頁
	・ 長万部町子ども読書活動推進計画について	
○発議第 1 号	教育予算確保・拡充と就学保障、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2 への復元、教職員の超勤・多忙化解消の実現に向けた意見書 -----	14 頁
○所管事務等の調査及び閉会中の継続調査について	-----	15 頁
○閉 会 宣 言	-----	15 頁

令和元年第4回長万部町議会定例会（第2日目）

◎招集年月日 令和 元年12月17日（火）

◎招集の場所 長万部町役場 議場

◎開 議 日 時 令和 元年12月17日（火） 午前10時00分

◎応 招 議 員（10名）

1 番	村 川	毅	6 番	橋 本	收 司
2 番	辻	紀 樹	7 番	高 森	功 治
3 番	高 橋	克 英	8 番	北 川	佳 嗣
4 番	大 谷	敏 弥	9 番	柏 倉	恵里子
5 番	長 崎	厚	10 番	辻	義 雄

◎不応招議員 なし

◎出 席 議 員 応招議員に同じ

◎欠 席 議 員 不応招議員に同じ

◎地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長	木 幡 正 志	水道ガス課長	中 里 博 也
副 町 長	佐 藤 英 代	出 納 室 長	小 川 洋
総 務 課 長	本 前 武 広	消 防 長	中 田 義 之
まちづくり推進課長	加 藤 慶 一	病 院 事 務 長	田 辺 知 行
新 幹 線 推 進 課 長	岸 上 尚 生	教 育 長	近 藤 英 隆
税 務 課 長	中 山 裕 幸	教 育 次 長	岡 野 喜 美 雄
町 民 課 長	佐 藤 剛	教育委員会事務局参事	佐 藤 修
保 健 福 祉 課 長	岡 部 忠	選挙管理委員会事務局書記長	本 前 武 広
健 康 推 進 室 長	野 澤 明 子	監 査 事 務 局 長	豊 嶋 慎 一
産 業 振 興 課 長	對 馬 政 宏	農 業 委 員 会 事 務 局 長	對 馬 政 宏
建 設 課 長	神 野 隆 之		

◎本会議に職務のため出席した者の職氏名

議 会 事 務 局 長	豊 嶋 慎 一
議 事 係 長	増 田 理 恵
議 事 係	工 藤 大 智

◎議事日程

日程第 1 一般質問

日程第 2 発議第 1 号 教育予算確保・拡充と就学保障、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率
1/2への復元、教職員の超勤・多忙化解消の実現に向けた意見書

日程第 3 所管事務等の調査及び閉会中の継続調査について

◎開議宣告

１０時００分 開会

○議長（辻義雄） ただいまの出席議員は１０名であります。
定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。
本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

◎諸般の報告

○議長（辻義雄） 諸般の報告を事務局長からいたします。
豊嶋事務局長。
○議会事務局長（豊嶋慎一） 諸般の報告をいたします。本日議題となります発議１件、各常任委員長および議会運営委員長からの所管事務等の調査および閉会中の継続調査の申出書をそれぞれお手元に配付いたしました。以上であります。
○議長（辻義雄） 以上で諸般の報告を終わります。

◎一般質問

○議長（辻義雄） 日程第１、一般質問を行います。質問の用紙はあらかじめ配付済であります。質問者は４名、質問件数は５件となっております。
この際申し上げます。一般質問の質問時間は各議員４０分以内と決定しております。質問時間の終了３分前と、終了時にブザーを鳴らしますのでご承知おきください。
それでは順次質問を許します。
柏倉議員。

〔議員（９番 柏倉恵里子）登壇〕

○議員（９番 柏倉恵里子） 私は１点質問いたします。長万部音頭の保存をどう考える。
長万部音頭を踊る機会が少なくなり、伝え広めていこうという気運も感じられません。今年の町民運動会には、参加されていた高校生が数名、一緒に踊ってくれましたが、踊りは知らない様子でした。でも踊ってみようとしてくれたことがとても嬉しく思いました。どこの町にも繋いでいきたい文化があります。長万部音頭もこのままだといずれ誰も知らない幻の歌と踊りになってしまいます。運動会にも町職員がたくさん参加しています。職員こそ先頭に立ち踊り出すべきだと思いますし、そのあとに町民も続くことでしょうか。保存会も立ち上げ、かにまつりでもやぐらを建て、輪になって踊る機会を作ってはいかがですか。

また、盆踊りも各町内会の役員の方々が一生懸命に続けてっていますが、長万部町として開催することがあってもいいのではないですか。昔は仮装大会などで盛り上がったものです。今はハロウィンで仮装が主流になりつつありますが、お盆に帰省した子どもさんや、孫さんなどの仮装も楽しみになるのではないのでしょうか。町長の所信を伺います。

〔議員（９番 柏倉恵里子）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 長万部音頭の保存をどう考えるか、の質問にお答えをいたします。

現在の長万部音頭は、「新長万部音頭」と言われるもので、それまでの「長万部音頭」に替わり、町民が親しみやすく、行進や日本舞踊系の振り付けが可能な曲として、新たな町のテーマソング「新長万部音頭」が、町開基１２０年・町政施行５０年記念事業の一環で、製作されたものであります。

当時は、毛がにまつりでも町内を踊りながらパレードする「千人踊り」などの機会などもありましたが、人口減少に伴いパレードも実施できなくなり、徐々にイベント等での使用が減ってきたのが現状であります。

保存会を起ち上げたり、盆踊りを町主催での開催をしてはどうかとのことでありますが、かつて駅横で実施された盆踊りや仮装大会は、町内有志の方々により開催した経緯もあり、このような文化的行事は、自然発生的に醸成されていくべきものであり、町としてはそれらの状況を見定めながら対応していくべきと考えております。

また、「新長万部音頭」は製作されてから、すでに２６年が経過しており、時代も平成から令和に変わり、時代も変化してきていることを踏まえ、今後は、町民の皆さんの気運の醸成などの状況を見守りながら対応してまいります。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（９番 柏倉恵里子） 非常に残念な答弁だと思っております。まず、町長は新長万部音頭踊れますか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 大変申し訳ございません、踊ったことはありません。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（９番 柏倉恵里子） それでは職員の皆さんに踊ってくださいということも言えないと思います。町民の皆さんの気運の醸成とありますが、そもそも長万部音頭の音源を取りたくても、どこから、どこに音源があるのかさえも分からない状態です。今は携帯で音楽をダウンロードする時代です。そのような方法で誰でも長万部音頭を入手できるようにしていただきたいと思いますが、いかがですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 長万部音頭できた頃に、各町内会にカセットテープ配付して、千人パレードだとかそれに活用していただくため、そして踊りの練習に使うために配付された経緯があるんですが、最近盆踊りやっても、長万部音頭って中々かからないですね。北海盆唄、子ども盆踊り、この曲２曲で１、２時間回して、盆踊りの輪の中での、踊りの曲になっているというのが現実なんですね。今おっしゃるとおり、スマホや携帯などの時代になってきたんで、配信できるような形にしたかどうかということなんですが、今ここで技術的にそれが可能かどうかというのは今の段階で検証しておりませんでしたので、ちょっとそれは答弁控えさせていただければと思っております。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（９番 柏倉恵里子） ぜひ方法を模索していただいて、誰でも音源を入手して、踊れる状態を作り出していきたいと思っております。

で、新長万部音頭は、無体財産として町のホームページに載っています。これは町民の醸成ということではなく、町が積極的に守り広めることが必要だと思っております、いかがでしょうか。

○議長（辻義雄） 加藤まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（加藤慶一） ホームページには無体財産権というところに、著作権というところで長万部音頭、新長万部音頭というのが載ってるということで確認をさせていただきます。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（９番 柏倉恵里子） です、町としても守り広めていく使命があるのではないかと思いますけどいかがですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） それは当然守り育てていく使命というのは感じておりますので。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（９番 柏倉恵里子） 町民の方々からの醸成ということが、毎年人口が１００人単位で減っていく中で、町民の方々に気運の盛り上がりというんですか、そういうことがもう段々と失せてきている、そういう状態に今町はなりつつあるのではないかなと思うんですよね。ですので、やはり踊りを踊りたいという気持ちがあっても、今回の町民ふれあいオリンピックでもそうですけども、曲はかけてくれます。でも誰かが出てくるまで結局、我先にとって言って踊り出すことはとても気恥ずかしいことなんです。で、そこに参加されている町職員の方々が、自ら出て、先に踊り出したら絶対後から町民って続いていくんですよ。だから先に踊り出す人が誰かというところをやっぱりきちんと、職員なのかあるいは保存会が立ち上がるのであれば保存会の方々が、どこに行ってもばっと先頭を取って踊っていただけるような状態が作り出せれば、そこに続く人は絶対いるんですよ。ということは、踊りというのは踊ってる人が一番楽しいんですね。だから北海盆唄も先ほどおっしゃってますけど、簡単な踊りで、その繰り返しなので、今踊れる人はどこにでもたくさんいらっしゃいます。で、長万部音頭はちょっとそれよりかは難しいんですけども、結局は同じ動作の繰り返しなので、今踊れる人が点在してますので、そういう方々がいるときに、実際に立ち上げをして、そういう「かにまつり」ですとか、踊る機会を作ってあげて、そこに先に、先頭に踊り出す部隊として、作っていくことが望ましいのかなって。そうすると絶対町民って後から付くんですよ。そういうものだと思いますか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 昨日、この質問の中に毛がにまつりの話題もちょっと行間にあるもんだから、祭りの実行委員会の方にお話をさせていただきました。で、祭りの会場にやぐらを建ててやるというのは、非常に面積が狭くて難しいと言うことの返事しか帰ってこなかった。今後まちづくりの、今祭りの中での新長万部音頭をどう活かすかということで、商工会なりその実行委員会で考えていきませんかと言ったら、今の段階でそこまで受け入れられるだろうかという話もちょっと出たんですよ。ということは、その話の話題の中に、今民謡を例えば教えている、日本舞踊を習っている人方というのは、長万部にどのくらいいるんですかと逆に聞かれたことがあってね。文化祭もそうなんですが、民謡唄う人、以前に長万部民謡協会というのがあって、かなり人数いたんですよ。今年４人でした。民謡協会の出し物で、民謡を歌った人は４人しかおりませんでした。その中で、今後日本舞踊を踊ってくれる人いるのって話もしたら、昔はね、塚越社中だとかって有名なグループがいて、様々なところで踊りを踊ったり、それから長万部音頭を踊ったりということで、積極的に前に出てやった。

で、逆に長万部の、例えばふれあいオリンピックのときに、リーダーは誰かと、誰か出なかったら踊らない。そしたら、例えば昼の休憩時間にやるとすれば、やっぱりそこはふれあいオリンピッ

ク実行委員会の中でリーダーを決めて、曲がかかる前にグラウンドに出ていただく。そして踊り始めたら皆さん覚えてる人はそれなりに踊ってくれるのかな。職員も先頭立ってやれっていう話なんですけども、職員は職員として出てるんでなくて、町内会の会員としてふれあいオリンピックに参加している。だから一概に町の職員が全体的にそこに出て云々という話を強制できるのかなって。それはちょっと無理かな。そんな気はしてます。今時代が変わって、全て職員に強制力を持たせるかっていったらそうはいかない状況にあるんで、そこは慎重に、いろいろ慎重にかからなきゃいけない。まあ柏倉先生もかなりこれの文化の伝承ということについては気にかけておられるから、一般質問に出されたと思うんで、ぜひ期成会なり立ち上げの努力をしていただければありがたいなと、そう思ってます。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 実際に期成会の立ち上げということになれば、やりたいですって言ってくれてる人もいます、実際に。ただ、町民から町民からって言う町長の答弁が、なんでも町民から町民からって言う言葉が私は凄く気になって仕方ないです。ということは、町長は私たち町民をどういうふうに、どこに連れて行ってくれるのかなって。私町長のリーダーシップがどうも見えなくて。で、何かあれば町民から町民からって。町長も実際に今長万部音頭を踊られてませんし、職員自ら、職員だから踊れって言うてるんじゃないですよ、職員も長万部音頭くらい分かってなさいよって言うことですよ。そして、この長万部音頭できたときには、私もよく知ってますけど、職員毎日役場で練習しましたよ確か。で町内会も千人踊りのためにみんな浴衣も用意して、帯も用意しましたよ。そして踊りました。なくなりました。そしてかにまつりのときも確かにやぐらを建てて、そこで踊ることを何回か確かやったと思います。でもそのときに、もう踊る人もいなくて、それもなくなったようなふうに私の中では記憶しているんですけども。町長が「よし、長万部音頭をみんなで踊ろうよ」って旗上げるのが、リーダーとしての役割なんじゃないですか。これをみんな町民で長万部音頭踊れるようになろうよって。例えば沖縄のカチャーシーだって、音楽かかればみんな踊り出すんですよ。そうせずにはいられないと。それが県民性というか。だから私は長万部音頭がかかったら、長万部の町民が誰でも長万部音頭を踊れるような、そういう町民性というか、そういうのを作り出したいなというふうに思うんですよ。それを町民から町民からって言うんじゃないくて、町長がリーダーシップを取って「よし、やろう」と。

で例えばふれあいオリンピックも来年で50回を迎えると。参加する町内会も少なくなり、町内会長さんの中の話し合いの中で、50回をめぐにという話で、来年もう1回頑張ろうという話になってるというふうにお伺いしましたが、そうなってくれば、町民が集まるものをまた別に考え出さなければならないとか、考えた方がいいですよ。何もなくなるよりは。そしたら盆踊りも町主催で、場所も駅横になるのかどうか分かりませんが、そういうふうに町主催で長万部の町民がこぞって盆踊りを楽しみにできるような、そういう機会も作っていくべきだと私は思います。

2016年の長万部フォーラムで、水曜どうでしょうのチーフディレクターの藤村さんという方が講演をしてくださった中に、人を外から呼ぶことを主眼に考えてはいけなと。まずそこに住む人が楽しむことが大事だよって。イベントをやるのであれば、それが本当に楽しくなければいけない。そこに住む人方が。ということを考えて、私は盆踊りを楽しそうに踊ってる町民の姿というのを思い描くんですけども、そういう町民が楽しそうに過ごしている、そういうことっていうのを町長が「よし、やろう」って言ったら付いていくんじゃないですか。そういうリーダーシップをお取りになったらいかがですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 大変貴重なお話しをいただいておりますけれども、今、町内会も盆踊りやるの1日だけなんですよね。普段やっても人が集まらない。ただ踊らただけならもう人つてのは集まらないからって言って、最後1日だけ、それもやぐらも建てずに会館の中でやってる。どの地域もやっぱり見たらそういうような状況になってる。ただ、真剣に捉えて、本当に駅横にやぐら建てて、やって、そして予算を付けて、たっぷりやるのはいいんだけど、それで本当に集まってくる、逆に町内会が開催してる盆踊りの妨害にならないだろうかということも考えながらやっていかないと、これは1回やればいいってものじゃない。はじめたらやっぱり回を重ねていくってのが常識の判断ですよ。だからそれを守っていくというのが、貴重な財源、厳しい財源の中で、それもやりなさいっていうのも厳しいなと思ってるし。

こないだ、今回話したの、前回やったのは、仮装行列も民間の寄附集めて、民間の中でそれだけのものを用意して、そしてみんなで盛り上げてやったって経緯があるんだけど、未だかつてこの長年の盆踊りの歴史の中で、町主催の盆踊り会ってないんだよね。やったことがない。それ民間の力でやってたし、交通量の少ないときは駅前あの前にどんとやぐら建てて、全町から家族が集まってきて盆の余興を楽しんだ。こういうことについては、子どもながらに記憶もあるんだけど、それ以外交通量が多くなってきたりして、本当に手狭なところに押しやられてくる。それが現状だと思うんで、今後いろいろお話をいただいておりますので、教育委員会が正直なところ所管なので、教育委員会でも話をしながら、どうやって長万部音頭のそれこそ伝統を守っていくかってことと、それともうひとつ、今後やるとすればどういう形でやるってのは、今ここでやるって話じゃなくて、どういう形でやれるんだと、そしてやるとしたらどのくらいの予算を見ながらやらなきゃいけないってことを、はっきり立ててやらないと。そしてそこにはなんぼ町長がやると言ったからやりますって話じゃなくて、やっぱり町の中に活性と気運が生まれてこないと成功には持っていけないだろうなと思ってるんで、そこら辺ちょっと我々も長万部音頭について今本当に、それこそ運動会、オリンピックしか踊ってないというのが現状で、ほとんど今道内見ても函館の港祭り、小樽の潮祭り、これがパレードやって本当にその町の民謡を主体としたイベントをやってるというのが、この2つの市しかないような気がしているんだけど、そんなことで今後ひとつ教育委員会も含めて、今後長万部音頭をどう保存していくのか、どう伝承していくのか、どうそれを気運の醸成に向けて活用するのかということを考えていきたいと。以上です。

○議長（辻義雄） 以上で柏倉議員の質問を終わります。

次、大谷議員。

〔議員（4番 大谷敏弥）登壇〕

○議員（4番 大谷敏弥） 私は2問について質問いたします。地域対策・人口減少対策は。

人口減少の危機突破に向けた最大の課題は何か。地域における雇用効果がどう生み出され、どう充実していくのか。働き口があるようだが、どのように人を呼び込むのか。以前本会議での質問に対し答弁されている、次の2点について伺います。

1点目。雇用条件については1.41倍の求人率があるが、働く人がおらず企業が困っている状況で、1人でも多く長万部に来ていただけるよう施策を講じたい。

2点目。人材が集まりさえすれば工場を増築する意向の企業もあることから、町内企業への支援や移住定住施策を進め、補助制度の情報や発信も強化し、引き続き企業誘致と雇用拡大に取り組む。

以上の2点について、その後の進捗状況と対策は。町長の所信を伺います。

2 問目。冬期間の町道の危険防止の対策は。

町営スキー場から温泉街へ下りていく町道北 5 号線は急な坂道であるため、冬期間に凍結してすべり、怪我をする町民もいるとのこと。また、近くに用事があっても滑りやすいために遠回りすることがあり、不便を感じている人もおられます。通行時の安全確保のため、砂置き場を設置してはいかがか。町長の所信を伺います。以上です。

〔議員（4 番 大谷敏弥）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 地域対策・人口減少対策は、お答えをしたいと思います。

ご質問のあった地域対策・人口減少対策について、人口減少の克服は極めて重要な課題であると認識しており、町では、平成 27 年策定の第 1 期長万部町創生総合戦略に基づき、雇用創出や移住・定住の促進に向けた取組を進めてきたところであり、平成 28 年 6 月に同議員からの質問があった内容について、その後の進捗状況と対策についてお答えいたします。

1 点目の雇用状況への対策についてであります。ハローワーク八雲の情報によると、令和元年 10 月の有効求人倍率は 1.63 倍と依然として高く、町内企業では引き続き人手不足の状況となっております。

2 点目の企業の誘致につきましては、理科大と町が連携して進めている地方創生推進事業のアグリ事業では、トマト工場などの企業関連施設の誘致と、14 人の雇用の成果があった反面、企業移住政策では、長万部町企業等立地促進条例に基づく補助制度があるものの、近年は利用実績がなく、有効な対策とはなっていないのが現状であります。

なお、雇用・企業誘致に関連する移住・定住対策では、この間、地域おこし協力隊から移住の実績があり、来年 1 月末に東京で開催される「移住・交流アンド地域おこしフェア 2020」において、みなみ北海道ブースで出展し、地域おこし協力隊の募集と移住・定住の PR を行う予定であります。

今後の雇用・企業誘致を含めた地域対策・人口減少対策につきましては、町として、現在、地方創生の次のステージとして、策定作業を進めている第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略において各種取組を推進し、今後も地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保と、地域における魅力ある多様な就業機会の創出について、切れ目ない取組を継続・強化してまいりたいと考えております。

2 点目。冬期間の町道の危険防止の対策は、ということでございますのでお答えをさせていただきます。

ご質問の町道北 5 号線は、幅員約 4 メートルのせまい坂道の町道でございます。通行時の安全確保のため、砂置き場を設置してはとのご質問であります。当該道路の幅は敷地いっぱいの状況であり、民家の塀や柵が隣接しております。周囲はすべて私有地で出入口などありますので、砂置き場を設置する場所がございません。仮に道路敷地に砂置き場を設置いたしますと、自動車などの通行の支障にもなりかねないことから、設置は難しいと思われま。

当面の対策としては、この場所に限らず、滑りやすい場所への注意看板の設置や、日々の巡回の中で、傾斜のきつい坂道などの路面状況を観察し、必要に応じて融雪剤の散布を行うなどの対応を行ってまいりたいと考えております。

また、この時期は平地においても滑りやすい状況になることが多く、道路を歩行する方々におかれましては、転倒事故防止のためにも、靴の滑り止め対策を講じるなど、自己防衛にも努めていた

だきたいと思っております。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 大谷議員。

○議員（４番 大谷敏弥） それでは１点について質問いたします。私の答弁の中で長万部に来ていただく、１人でも長万部に多く来ていただけるように、と質問していますが、どのような情報等発信してきましたか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 移住・定住に関しては、ホームページでも利用してますし、行政報告でも申し上げたとおり、各種就農フェアでも参加をして、呼びかけをしている最中でもあります。また、国縫にも民泊で入られてる方も、札幌から来た方もおりますし、陣屋には喫茶店を経営している方も現在おります。実際のところそう目立たないんだけどもぼちぼち入ってる。そしてまた空き家を探している方も何人かおられるということで、動きはないわけではない。現実に移住したいという人の動きもある。ただ、問題はやはり空き家であっても、大金をかけないでリフォームできるような空き家を探したいと誰しも思うんですね。だからそういう所の方がなかなか決定が見られないという状況なんで、今後もホームページ等を通じながら、各フェアにも参加して行って、１人でも多く入ってくれることを望んでいきたい、そう思ってます。

○議長（辻義雄） 大谷議員。

○議員（４番 大谷敏弥） １問目の２点目になるんですけども、２点目と、２問目については前向きな答弁をいただきましたので、これで私の質問を終わらせていただきます。

○議長（辻義雄） 以上で大谷議員の質問を終わります。

村川議員。

〔議員（１番 村川毅）登壇〕

○議員（１番 村川毅） 私は１点について質問いたします。第２期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について。

我が国における急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、地方の人口の減少に歯止めをかけるため、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目的として、２０１４年１１月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、長万部町においても、２０１５年度から今年度までの５年間の総合戦略を策定して推進してきましたが、次のステージとなる２０２０年から２０２４年までの第２期総合戦略策定に向けての戦略の基本的な考え方と現在の作業状況、今後のスケジュールを伺います。以上です。

〔議員（１番 村川毅）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 第２期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」についてお答えをいたします。

次期総合戦略については、国において本年６月２１日にまち・ひと・しごと創生基本方針２０１９が閣議決定され、同日付で地方自治体に次期地方版総合戦略の策定依頼があったところであり、今月下旬には国の次期総合戦略が閣議決定される見込みとされております。

町といたしましては、次期地方版総合戦略の策定にあたっては、国や道が示す次期総合戦略の内容を勘案し、切れ目ない取組を進めることが必要と認識しているところであり、第１期の検証と第２期に向けた取組を取りまとめて、まちづくり推進会議やパブリックコメントを活用して民間意見

を幅広く取り入れながら次期戦略を策定したいと考えているところであります。

現在の作業状況につきましては、札幌で9月6日に開催された国主催の地方版総合戦略策定に係る地方ブロック説明会に担当係長が出席し、9月13日に第4次長万部町まちづくり総合計画及び第2期長万部町創生総合戦略策定業務を委託発注し準備作業を進めているところであり、11月5日に開催したまちづくり推進会議において、総合戦略の策定にむけた概要説明を行い、関連する町民アンケートを11月15日付で実施し、現在、主要課題の整理および次期総合戦略の検討を行っているところであります。

今後のスケジュールといたしましては、来年2月頃からパブリックコメントを募集し、3月末を目途に次期総合戦略の策定を見込んでいるところであります。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（1番 村川毅） それでは何点か再質をさせていただきます。第1期の総合戦略策定時には、非常に短い時間の中で策定しなければならなかったように記憶しておりますけれども、今回は1期の検証をしながら、切れ目なく2期の策定に入っていくということですので、戦略の策定には多少余裕があるのかなというふうに思っております。

まず1点目に、この戦略のそもそもの基本となる人口ビジョンについてお聞きします。1期で策定した人口ビジョンでは、2040年には3,566人と社人研の推計数値が出されましたけれども、これから5年間経過して、2期の戦略の策定にあたっては人口推計を見直すのかどうかお聞きします。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 人口減少の推計の話なんですけど、11月末現在長万部町の人口5,300になりました。この5,300人の人口の中には、実は理科大の学生が56名含まれております。2月になると、この56名が住民票を長万部から移して東京に行かれるってことなんで、人口減少の一番大きな2月の末の減少がもう見えてきてる。それと、今残念ながらお亡くなりになられる方が結構多くなってきてて、これを換算していくと令和3年ないし4年には5,000人割るんじゃないかっていう危機感を実は持ってるところでありまして、残念ながら5,000人は割りたくないと思っているんですが、なかなかそうした人口減少の歯止めをかける起爆がないということも含めて、当然人口推計については見直しはかけていきます。そういうことでご理解いただければ。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（1番 村川毅） これは担当課に聞いた方がいいと思うんですけども。この推計は社人研から出るんですか。

○議長（辻義雄） 岸上課長。

○新幹線推進課長（岸上尚生） ただいまのご質問についてでございますが、現在発注しております総合戦略の委託業務の中で、人口ビジョンの見直し業務を行う予定になっております。その発注内容につきましては、平成27年の人口ビジョンを元に、社人研データの更新作業を行うこととして、業務を発注しているところでございます。説明は以上でございます。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（1番 村川毅） 答弁の中で、第4次まちづくり総合計画と、2期の総合戦略の策定業務を委託発注済というふうになっておりますけれども、いろいろある各種計画の中で、まちづくり総合計画が当然最上位の計画でありまして、総合戦略の位置付けといいますか、をどのように、ちょ

っと難しいかも知れないんですけど、どのような位置付けで考えているのでしょうか。

○議長（辻義雄） 加藤まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（加藤慶一） お答えいたします。総合計画と地方版総合戦略との関係につきましては、総合戦略は人口減少克服、それから地方創生を目的としておりまして、一方の総合計画につきましては、町の総合的な振興発展を目的としております。しかし、その目的や政策の範囲は必ずしも一致するものではありませんけれども、関連する項目が非常に多いということです、こちらは総合計画では、総合計画は2か年に渡って令和3年の3月に策定をする予定でございますけれども、その策定過程の中で、第2期の長万部町総合戦略を重点プロジェクトという位置付けをいたしまして、基本計画の策定を行ってまいりたいという考えでございます。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（1番 村川毅） 総合戦略を見ると、ほとんど総合計画をカバーしているように思われます。で、人口減少を抑制する部分に関わる部分というのは、全ての計画に何らかの形で関わってくると思います。で、今重点的というのは当然だと思うんですけども、1期においては国から4つの基本目標が示されまして、長万部においてはさらに新幹線を核としたまちづくりと、東京理科大と連携したまちづくりを加えて、6つの基本戦略を作りました。で、今後国や道から主要な戦略が示されるということですが、11月5日に推進会議が行われておりますけれども、その推進会議の中で、何らかのこの戦略、国や道からの戦略以外に長万部独自にこういった戦略を付け加えたらどうだという話までは、この段階ではいってませんか。

○議長（辻義雄） 岸上新幹線推進課長。

○新幹線推進課長（岸上尚生） ただいまの推進会議での議論についてのご質問についてですが、11月5日の会議の中では、特に総合戦略についての意見というのはなかったところでございます。以上でございます。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（1番 村川毅） 国から出るのは通常の戦略が、例えば前回にさらにプラスしてという戦略が出ると思うんですけど。町長やはり理科大という部分と新幹線という部分は当然戦略には乗せていきますよね。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 計画の中には、おっしゃるとおり検討課題として十分斟酌していきたい、そう思ってます。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（1番 村川毅） 1期の戦略の中では、再生可能エネルギーを活用した先進的アグリビジネス事業ということで、交付金事業としてトマト栽培を進めているわけですが、2期の戦略においてこの交付金事業に手を上げるかどうか、今のところどのように考えていますか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 策定の会議の中に入っていったんで、その後についてはちょっと答弁を控えさせていただければと思ってます。

○議長（辻義雄） 村川議員。

○議員（1番 村川毅） それでは、実は1期の交付金事業は3年間で、交付金が2億8,000万ということで、町の持ち出しが1億4,000万。実はこれ町村レベルでは全国的に見ても突出した金額です。で、これを進めてきて、まだ終わってない訳なんですけれども、2期の交付金事業

では、そこまでお金をかけなくても、実際問題先日の委員会での話なんですけれども、子育て世代からのアンケートというの出てましたよね。それを見るとなんとかしてほしいという要望というのは結構生の声がございますね、だから戦略の中に、交付金事業の中に国から補助貰って、もちろん町も2分の1出すんでしょうけれども、子育て支援に向けた事業を考えるべきじゃないかなというふうに私自身思ってるんですけども。町長、この辺どうですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 今も子育て支援には十分取り組んできていると思っております。計画策定の中でそうした子育て部門でのまち・ひと・しごとの中で策定の必要性が出てくる可能性が十分あるんで、それもまた検討の課題にさせていただきたいなと思ってます。

○議長（辻義雄） 以上で村川議員の質問を終わります。

橋本議員。

〔議員（6番 橋本収司）登壇〕

○議員（6番 橋本収司） 私は1問の質問をさせていただきます。質問事項、長万部町子ども読書活動推進計画について。

子どもの読書活動の推進について、平成14年8月に国の基本計画と、平成15年11月には北海道の推進計画が策定されました。近年、子ども達を取り巻く生活環境は大きく変化し、読書離れを引き起こし、様々な負の社会現象を表出させています。

読書は人間形成に大きな影響を与えくれうる役割があります。子どもの読書活動をより身近で親しみやすいものとするため、読書環境を整備することが今最も必要です。当町においても平成22年に10年計画で長万部町子ども読書活動推進計画が策定され、最終年度となった現在、次の点についてお聞きします。

- 1、長万部町立図書館の本の貸出しの状況と運営状況は。
 - 2、現在に至るまでの計画の見直しは。
 - 3、10年計画が終わり今後さらなる計画が策定されるのか。
- 以上の3点についてお聞きします。

〔議員（6番 橋本収司）自席へ〕

○議長（辻義雄） 近藤教育長。

〔教育長（近藤英隆）登壇〕

○教育長（近藤英隆） 長万部町子ども読書活動推進計画について、お答えいたします。

平成13年12月に施行された子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、長万部町教育委員会では平成22年3月に長万部町子ども読書活動推進計画を策定し、子どもの読書環境整備に取り組んでまいりました。

1点目の、この間における子どもに対する本町図書館の図書貸出状況は、平成22年度末で貸出者数821人、貸出冊数2,879冊。平成30年度末で貸出者数1,823人、貸出冊数3,849冊となっており、計画策定時に比較し、貸出冊数で33パーセントの増となっております。本町における子どもの読書習慣は着実に定着しているものと判断しております。この要因としては、乳幼児健診時におけるブックスタート事業をはじめ、地域におけるサークルが中心となる読み聞かせ会、移動図書館車による保育園、幼稚園、小学校への貸出事業などの成果であると考えられます。

2点目のこの計画期間内での計画の見直しは、事業の成果が見られることから行っておりません。

3点目は、今年度、計画期間の最終年度を迎えるため、年度内に新たな計画を策定する予定であ

りますが、平成30年度に策定された、北海道子ども読書活動推進計画（第4次計画）の計画期間が5年間であったため、本町においても計画期間を5年間とする予定であります。

〔教育長（近藤英隆）自席へ〕

○議長（辻義雄） 橋本議員。

○議員（6番 橋本収司） 1点目2点目の再質ですが、33%の増、またブックスタート事業をはじめ、保育園、幼稚園、小学校への貸出事業で大変成果が見られるとの答弁でしたが、この推進計画は1歳から18歳までのことだと思いますが、中学生、高校生に対しての貸出割合、またはどのような取組をしてきたのか伺います。

○議長（辻義雄） 佐藤教育委員会事務局参事。

○教育委員会事務局参事（佐藤修） 中学生、高校生に対する貸出冊数の割合は、平成30年度末で合わせて4%であり、残りの96%が幼児、小学生であります。また、取組としてはですが、中学校では登校後の10分間で朝読書を毎日実施しており、読書の習慣は身に付いてきているものと思われまふ。ただし、図書館からの貸出しではないため実績には反映されておりません。高校につきましては、今年度より3年生が授業で図書館から1人1冊程度借りている状況ですので、読書に対する興味や関心が深まるものと期待しております。

○議長（辻義雄） 橋本議員。

○議員（6番 橋本収司） 今の答弁で、中学校高校4%と大変低い数字だということで、計画当初から今年度31年度でどの程度成果が、何%から何%、4%になったということでもいいですが、お答えをお願いします。

○議長（辻義雄） 佐藤参事。

○教育委員会事務局参事（佐藤修） 当初の割合でございますが、中学生については4%程度、高校生については2%程度ということで、やや減少したという割合でございます。

○議長（辻義雄） 橋本議員。

○議員（6番 橋本収司） 小学生以下の割合が96%と大変高い数字で評価されることではあります、中学生高校生に対しては何も変化がないという部分で、最初の答弁にありました、大変成果が見られるから見直しは必要ないということの答弁がちょっと食い違うのではないかと思いますかどうか。

○議長（辻義雄） 佐藤参事。

○教育委員会事務局参事（佐藤修） 最初の答弁につきましては、全体的な数字を捉えての答弁でございましたので、ご指摘のとおり中高生に対しての成果というものは見られなかったものと、数字のとおりでございます。

○議長（辻義雄） 橋本議員。

○議員（6番 橋本収司） それでは3点目の再質ですが、12月3日の新聞で、世界79か国の15歳を対象に、国際学習到達度調査において、前回の2015年ですが、読解力が8位から今回の結果が15位と後退したことに對し、文部科学省が学力向上を検討すると発表していますが、これを踏まえて今後どのような計画を立てるのか伺います。

○議長（辻義雄） 近藤教育長。

○教育長（近藤英隆） 第2期の計画についてであります、子ども読書活動の環境整備、子どもが読書に親しむための機会提供、子ども読書活動に対する啓発活動の3点を目標に掲げまして、子ども達が自ら進んで読書活動を行うことができる環境づくりに、さらに取り組んでまいります。

○議長（辻義雄） 橋本議員。

○議員（6番 橋本収司） 中学生、高校生の今後の取組として、学校と連携して計画を立てるということはできないのでしょうか。

○議長（辻義雄） 近藤教育長。

○教育長（近藤英隆） 中学生、高校生の割合が低いので、校長会あるいは教頭会、そして学校に出向きまして、現状を伝えまして、今後割合が増えるように努力してまいります。以上です。

○議長（辻義雄） 橋本議員。

○議員（6番 橋本収司） 今現在、町立図書館の図書館司書は非常勤となっていますが、本町に本屋さんがなくなった今、子ども達だけでなく、一般町民に対しても幅広く利用してもらうためにも、常勤できる専門職として図書館司書が必要ではないかと思いますが、どう思いますか。

○議長（辻義雄） 近藤教育長。

○教育長（近藤英隆） 今の件につきましては、人事に関する事項ですので、町長とも後ほど相談していきたく思いますけれども、今現在いる図書館司書につきましては、来年3月31日で定年退職いたしますので、その後新たな図書館司書が必要でないかと私は考えておりますし、配置につきましても、図書館内に配置していくことを今考えております。

○議長（辻義雄） 以上で橋本議員の質問を終わります。

以上をもって一般質問は通告どおり全部終了いたしました。

これをもって一般質問を終結いたします。

◎発議第1号 教育予算確保・拡充と就学保障、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、教職員の超勤・多忙化解消の実現に向けた意見書

○議長（辻義雄） 日程第2、発議第1号教育予算確保・拡充と就学保障、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、教職員の超勤・多忙化解消の実現に向けた意見書の件を議題といたします。提出者に提案理由の説明を求めます。

村川議員。

〔議員（1番 村川毅）登壇〕

○議員（1番 村川毅） 発議第1号教育予算確保・拡充と就学保障、義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、教職員の超勤・多忙化解消の実現に向けた意見書について、提案理由の説明をさせていただきます。

義務教育費国庫負担率が2分の1から3分の1になったことで、定数内期限付採用や、非常勤教職員が増加し、教職員定数の未充足などの状況が顕著になっています。国からの働き方改革の声はあがあるが、現場任せにされている部分があり、依然として教職員の多忙化の問題が残っております。子ども達へのきめ細やかな教育や、地方における教育の充実のためにも、地方自治体任せにするのではなく、国の責任において応分の教育予算を賄うとともに、現場の実態を踏まえた学校づくりの具現化が大切です。また、少子化解消のためにも、できるだけ教育に対する家計負担を軽減することが求められています。以上のことから、教育予算の確保・拡充、就学保障の充実を図るよう、政府に対し、意見書を提出するものであります。

以上ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（辻義雄） これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

これをもって質疑を終わります。

提出者は自席へお戻りください。

〔議員（１番 村川毅）自席へ〕

討論ありますか。

〔「なし」の声あり〕

討論を終わります。

これより直ちに本案を採決いたします。

お諮りいたします。本案は原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

ご異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり可決することに決定いたしました。

◎所管事務等の調査及び閉会中の継続調査について

○議長（辻義雄） 日程第３、所管事務等の調査及び閉会中の継続調査についての件を議題といたします。お手元に配付したとおり、各常任委員長および議会運営委員長から特定の案件について閉会中に委員会活動を行いたいとの申し出がありました。

お諮りいたします。各常任委員長および議会運営委員長からの申し出のとおり、閉会中の委員会活動を承認することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

ご異議なしと認めます。よって各常任委員長および議会運営委員長からの申し出のとおり、閉会中の委員会活動を承認することに決定いたしました。

以上をもって本定例会に付議された案件の審議は全部終了いたしました。

◎閉会宣言

○議長（辻義雄） これにて令和元年第４回長万部町議会定例会を閉会いたします。どうもご苦労様でした。

１０時５８分 閉会
